

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ/堀水潤一 撮影/松田康司

国際と地域をキーワードに 意欲的な人材を育てたい

漢

学振興を目的に1923年に創設された本学は、その後研究対象をアジア全域、欧米へと広げるなか、創設の理念である「東西文化の融合」さらに「多文化共生」をテーマとして掲げてきました。その理念と歴史のもと、徹底した語学教育、留学サポート、ダブルディグリー制度、スピーチコンテスト、論語研究などに力を入れ、地球的な視野や教養をもつ若者の育成に力を注いできました。

事実、卒業生の多くが海外で活躍しています。ベトナムのストリートチルドレンの施設では本学の卒業生が活躍していました。昨年のトルコ地震で亡くなられたNPO法人難民を助ける会の宮崎淳さんも誇るべき本学の卒業生です。

グローバルな社会で力強く生き、貢献する力を養うと同時に、私たちがキーワードとしているのが「地域」です。ローバリエーションのいっぽうで地域の空洞化が課題となっています。そうしたなか、社会的起業やコミュニティビジネス、NPOを含め、地域づくりを主体的に担える意欲的な人材を育てたい。環境創造学部による高島平団地の活性化プロジェクトや、本学が板橋区と共同で実施している「起業アイデアコンテスト」では、毎年、福祉関連を中心にユニークなプランが学生から提案されます。また、本学学生によるさまざまな自主的な活動、例えば、柔道部員を中心とした通学路のゴミ拾い、震災時の活発なボランティア、重度の障がいがある学

生に対する支援の輪など、大変頼もしく感じています。自ら新しい仕事を創造する。これは今の社会で強く求められる力です。学生の自主的かつ責任を伴う活動を大学としてどう支援していくか。これは、社会人基礎力の養成とともに、とても大切なことだと思います。

私たちが、こうした国際交流や地域連携の場を大切にするのは、現場に出なければわからない、現実的な課題に対して、主体的にかかわってもらいたいからです。そこには、世代や経験、考え方が異なる生身の人間同士の出会いがあるはずです。そして、「こういうすごい人に会った」「考えもしないことを言われた」といった体験は、人を変え、成長させることでしょうか。対立することがあってもいい。それを乗り越えたとき、自身の向上へと繋がるはずですから。

人は、変わるうと思えばいくらでも変われます。悩みを抱える学生は大勢いますが、自分がマイナスイメージを感じていれることをプラスに転じさせることは可能で、「最近の学生は学力が低くて困る」と嘆く教員もいるかもしれませんが、であれば、どう低いのかを究明し、一緒に変えていかなければいけません。人は変われるという信念があれば、教育など成り立たない、そう考えています。



大東文化大学
学長
太田政男

【学長プロフィール】おた・まさお●1946年生まれ。東京大学教育学部卒業。同大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。大東文化大学文学部教授、同文学部長などを経て2010年より現職。専門は社会教育、生涯教育。

【大学プロフィール】1923年創立の大東文化学院を前身に49年開校。文学部(日本文学科、中国学科、英米文学科、教育学科、書道学科)、経済学部(社会経済学科、現代経済学科)、外国語学部(中国語学科、英語学科、日本語学科)、法学部(法律学科、政治学科)、国際関係学部(国際関係学科、国際文化学科)、経営学部(経営学科、企業システム学科)、環境創造学部(環境創造学科)、スポーツ・健康科学部(スポーツ科学科、健康科学科)の8学部19学科。